

平成31年2月8日

平成30年度 学校評価（分掌等）

本年度の目標達成度 評価基準

- 1 分掌
総務・教務・生徒指導・進路指導・保健・特別活動
教育相談・研修
- 2 委員会
教育課程・キャリア教育推進・図書情報・修学旅行検討
支援
- 3 学年部
1年・2年・3年・4年
- 4 教科
国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・芸術・外国語
(家庭)・情報・商業

A 達成

B ほぼ達成

C やや不十分

D 不十分

1 分掌

平成30年度 経営・実践の評価と反省		部・科	総務部
本年度の重点目標	1 全体的な視野に立ち、各分掌間の連絡調整を図る。 2 より活力ある教育環境を目指す。 3 創設70周年記念式典をとどこおりなく行う。		
具体的実践と工夫	1 分掌間の連絡調整を密にし、余裕をもって準備する。(職員会議資料は、前年度の会議資料、月間行事から項目をかき出し回覧する) 2 P T A・教育振興会との連携を密にして、活力ある教育環境作りをする。 3 実行委員会と連携して、準備し式典を行う。		
本年度の成果と反省	1 職員会議の資料準備や黒板の月間予定の書き込みはしっかりできた。 2 P T Aに関しては、6月にP T A会長が逝去され、副会長に会長代行を行ってもらった。連携という点では、なべっこなどに1年生の保護者が積極的に参加してくれた。 3 創設70周年記念事業を無事に行うことができた。		
	本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします		
	A (B) C D		
次年度の目標と計画	・よかった点を継続する。(後期項目番号1) ・より実践的な避難訓練を計画し、実施する。 ・今の時代にあった振興会総会、P T A総会のもち方にしていく。 その他 生徒数の減少にともない、予算も逼迫している。使い方の見直しが必要である。		

平成30年度 経営・実践の評価と反省		部・科	教務部
本年度の重点目標	1 新しい三修制の定着を図る。 2 日々の出欠管理から年度末の単位認定まで成績処理をより効率的に行う。 3 スムーズな授業経営ができるように教務の立場からサポートする。 4 要録の電子化の円滑な運用を行う。		
具体的実践と工夫	1 生徒の実態を踏まえつつ、質的に充実した三修制のカリキュラムを構築する。 2 各分掌と連携し、機能的、合理的なシステムを構築する。 3 生徒の理解度や授業の状況を分析し、効果的な授業経営ができるよう対応する。 4 要録の電子化に伴い、H R担任向けの研修を行う。		
本年度の成果と反省	(1、2について) 3卒生、4卒生、編入生などそれぞれのニーズに応じた教育課程を編成した。本校生徒の実態に寄り添った教務内規の改定を行うことができた。出欠管理をきめ細かく行い、H R担任と連携し、生徒の出席を促すことに活用した。 (3について) 年度途中で標準、基礎クラスの見直しを行い、より理解度に応じた授業実践を促した。 (4について) 要録の電子化に伴い、入力に関する分担等についてマニュアルを作成し、職員会議で担任、その他の役割分担を明確化した。		
	本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします		
	A (B) C D		
次年度の目標と計画	1 新しい三修制の定着を図る。 2 日々の出欠管理から年度末の単位認定まで成績処理をより効率的に行う。 3 スムーズな授業経営ができるように教務の立場からサポートする。 4 要録の電子化に伴う個別対応研修、電子化された要録のデータを活用し、調査書等をスムーズに作成できるようサポートする。		

平成30年度 経営・実践の評価と反省		部・科	生徒指導部
本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 「定時の心得」の充実、共通理解と自己管理、自己責任の意識の醸成を図る。 交通事故や不審者被害などの未然防止に向けた安全指導といじめ、薬物乱用、ネットトラブル、不適切交遊などの問題行動の未然防止に取り組む。 生徒指導部内規の早期整備を図る。 		
具体的実践と工夫	<ol style="list-style-type: none"> 「いじめ」などの人間関係のトラブルを未然に防ぐため、生徒会と連携しながら「定時の絆（いじめ防止のための心構え）」を策定し、生徒自身の「いじめ」をなくす意識を高めていく。また、現状に即した「定時の心得」の見直しを図る。 事故を未然に防ぐため、生徒会と連携しながら通学時の事故防止や変質者被害の防止、災害時の対応を含めたハザードマップや事故時の対応カードの作成をする。 生徒に関わる情報交換がスムーズに行えるよう職員相互の連携を図る。 		
本年度の成果と反省	<p>頭髮の染色、ピアスを身につけるなど整容の乱れが見られる生徒や各種届け出の出し遅れ等もごく一部に限られてきた。少しずつではあるが、「定時の心得」への理解が深まってきたと思われる。ただ、スマートフォンの取り扱いに関わるルールを軽視したり、SNSの利用に関わった大きなトラブルにつながるようないざこざはないわけではない。また、複雑な家庭事情などの影響を受けて粗暴な振る舞いをしたり暴言を吐くような様子もみられた。多様な特徴を有する生徒たちを支援するという基本的な考え方をもとに注意深く観察しながら指導したい。内規やハザードマップ、事故対応カードの作成については、全日制課程や他校の情報を収集している。早急に着手したい。</p> <p>本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします</p> <p>A (B) C D</p>		
次年度の目標と計画	<ol style="list-style-type: none"> 「定時の心得」の充実と自己管理・自己責任の意識の醸成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒会と協力しながら定時の心得の定期的な検討と充実を図り、共通理解を深めるとともに、自律を促し自立を目指した指導の実践。 いじめ、薬物乱用、ネットトラブル、不適切交遊等問題行動の未然防止と交通事故や不審者被害などの未然防止に向けた安全指導の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ハザードマップや事故対応カードの作成と活用。 各種生徒指導講話の充実を図る。 生徒と学級を支援する生徒指導の実践と充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒を支援するという考え方に基づいた生徒観察とスムーズな情報共有の仕組みの構築。 生徒支援を目指した学級支援や担任をサポートする生徒指導体制の構築と実践。 		

平成30年度 経営・実践の評価と反省		部・科	進路指導部
本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 卒業生の進路希望の実現 学校生活全般を通じたキャリア教育の推進 家庭及びハローワーク、各分掌との緊密な連携 進路情報の整理と効果的な活用 		
具体的実践と工夫	<ol style="list-style-type: none"> 進路目標を具体化させ、実現に向けて個々の生徒に合わせた支援を行う。 キャリア教育年間計画を策定し、計画的に進路指導を行う。 保護者やジョブサポーターと情報を共有し、協力して進路指導を行う。 職場定着支援員やハローワークと連携を図り、進路に関する情報を整理して提供し、指導する。 		
本年度の成果と反省	<ol style="list-style-type: none"> 全員が就職を希望し、卒業までには全員が内定を得られそうである。 全学年で進路・キャリアに関連した指導を行い、将来への意識を高めた。 家庭・ハローワークと連携しながら進路指導を行った。 様々な情報を整理しながら提供したが、年々、各部署からの情報提供や進路関係の催しが増加しており、取捨選択の必要がある。 <p>本年度の目標達成度4段階評価</p> <p>A (B) C D</p>		
次年度の目標と計画	<ol style="list-style-type: none"> 卒業生の進路希望の実現 3～4年間を通じた計画的なキャリア教育の推進 家庭や関係機関と連携した効果的な進路指導 進路情報の整理と進路関係行事の精選 		

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	保健部
本年度の重点目標		<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の健康に関する意識を高める 2 基本的な生活習慣の確立を促す 3 思いやりの気持ちを育む
具体的実践と工夫		<ol style="list-style-type: none"> 1 保健指導の計画的・継続的な実施（個別・集団） 2 「性教育講座」と「保健講話」の内容等の検討 3 ほけんだより等でタイムリーな健康情報を発信 4 ゴミの分別やマナーに関する継続した指導
本年度の成果と反省		<ol style="list-style-type: none"> 1 ライフスタイル調査をもとに、生活習慣に関する個別の保健指導を実施。 2 助産師による性教育講座を実施し、事後アンケートで生徒は概ね理解できたとの回答であった。 3 保健講話は学校歯科医によるブラッシングの実技指導を行った。歯科検診後の個別保健指導＋講話による集団保健指導で、生徒への啓発を行った。 4 不定期にほけんだよりを発行し、タイムリーな健康情報と健康行動につながるような具体的な内容を発信した。
		本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします
		<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
次年度の目標と計画		<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の健康に関する意識を高める <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメントやレジリエンス等、心の健康に関する情報を継続して発信する。 ・保健講話は「心の健康」に関する内容で企画する。 2 基本的な生活習慣の確立を促す <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な保健指導の実施（個別・集団） 3 思いやりの気持ちを育む <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間、LHRと連携し、自己理解や他者理解を促す活動を計画的に実施する。

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	特別活動部
本年度の重点目標		<ol style="list-style-type: none"> 1 ホームルーム活動や学校行事を通して、豊かな心の育成と協調性をはぐくみ、充実した学校生活を送れるようにし、学校の活性化を図るようにする。 2 生徒会活動や部活動に積極的に参加させることにより、集団への帰属意識を育てる。 3 自分たちで問題点を発見し、自ら考え、工夫する態度の育成を図る。
具体的実践と工夫		<ol style="list-style-type: none"> 1 4年間を見通したホームルーム活動の指導。 2 各種生徒会行事の企画立案、実施と生徒会誌「僚星」発行、「定時の心得」の検討と実践とともに、定通中央地区大会、定通全県総体、生徒生活体験発表大会に積極的に参加させる。 3 生徒の考え方を否定せずに伸ばしていく。
本年度の成果と反省		<ol style="list-style-type: none"> 1 積極的に部活動に参加し全県大会や全国大会で入賞するなど、優秀な成績をおさめ活躍させることができた。 2 学校行事において、限られた状況の中でも生徒たちはがんばっていた。現状に満足せず、さらに生徒たちが主体となって活躍できるような活動になるように取り組んでいく。 3 来年度以降、生徒数が減少することが予想されるので行事や部活動の運営方法や改善点を職員全体で考えていく必要がある。
		本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします
		<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
次年度の目標と計画		<ol style="list-style-type: none"> 1 ホームルーム活動や学校行事を通して、豊かな心と協調性をはぐくみ、充実した学校生活を送れるようにし、学校の活性化を図る。 2 生徒会活動や部活動へ積極的に参加させ、集団への所属感や連帯感を深める。 3 様々な集団活動において自主的・積極的に取り組む態度の育成を図る。

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	教育相談部
本年度の重点目標	1 生徒の自己理解を促す活動の充実 2 相談活動の充実 3 生徒理解の研修の充実	
具体的実践と工夫	1 構成的グループエンカウンター（SGE）、SSTの活用 2 教育相談週間の事前記入資料の検討 3 SENチェックリスト、Q-U等の導入を検討 4 生徒理解に関する職員研修会を実施	
本年度の成果と反省	1 SGE・SSTを数回行ったが、計画的・継続的な実施には至らなかった。 2 支援委員会と生徒理解の研修等を実施し、事例検討などを通して生徒理解を図った。また、職員会議で特別支援教育に関する研修会の報告を行い、全職員で共有した。 3 SENチェックリストを用いて、生徒理解に努めた。 4 Q-Uの導入の検討に至らず、来年度への引継ぎ事項とする。	
	本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします	
	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
次年度の目標と計画	<input type="radio"/> 保護者との関係づくりのため、保護者面談週間を設定する。 ・時期は1回目を夏季休業前、2回目を後期教育相談週間後 ・基本的に全員の保護者と面談する ・担任の先生に限らず、副担任、部活動顧問、養護教諭等も面談	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	研修部
本年度の重点目標	1 校内研修の充実を図る。 2 各教科におけるキャリア教育の充実を図る。 3 授業アンケートの分析マクロの組み直しを行う。	
具体的実践と工夫	1 授業参観、授業研究会・研究授業を実施する。 2 必要に応じて校内研修会を実施する。 3 授業アンケートを継続して行い、授業改善に役立てる。	
本年度の成果と反省	・4月と11月に授業参観週間を設定し、延べ17名の先生方が互いに参観し合い、授業改善を図った。 ・11月に生徒理解の観点からについて校内研修会を行った。また、授業改善につながる話題提供として研修便りを発行した。 ・9月と1月に授業アンケートを行い、昨年変更されたアンケート項目に合わせて集計した。	
	本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします	
	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
次年度の目標と計画	【目標】 1 校内研修の充実を図る 2 授業改善に向けた情報発信に努める 【計画】 1 授業参観、授業研究会・研究授業、校内研修会を実施する 2 授業アンケートを実施する 3 研修便りを定期的に発行する	

2 委員会

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	教育課程検討委員会
本年度の重点目標	1 各教科、各分掌と連携し、生徒の進路実現に役立つ教育課程の作成を目指す。	
具体的実践と工夫	1 教育課程検討委員会を開き、各教科、各分掌と連携し、より良い教育課程を作成する。	
本年度の成果と反省	1 年度当初、教育課程検討委員会を開き、生徒個々の進路に応じ、標準クラス、基礎クラスに分けて、それぞれのニーズに応じた学習ができるよう、配慮した。また、学習に困難を抱えている生徒のために、T Tを設定した。 2 前期末考査終了後、生徒の学力に応じて、標準、基礎のクラス分けを改めて行った。	
	本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします	
	A (B) C D	
次年度の目標と計画	1 各教科、各分掌と連携し、生徒の進路実現に役立つ教育課程の作成を目指す。特に、平成31年度からの新学習指導要領先行実施、平成34年度からの年次進行実施がスムーズに運ぶようサポートする。	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	キャリア教育推進委員会
本年度の重点目標	1 生徒理解と進路実現の充実。 2 年間を通じたソーシャルスキル・トレーニングの実施。 3 家庭・地域等との連携を強化したキャリア教育の充実。	
具体的実践と工夫	1 生徒との定期的な面談を通じ、適性や進路希望を把握し、個々の生徒に合わせたキャリア教育を行う。 2 計画的にソーシャルスキル・トレーニングを行い、学校生活や社会生活に必要なコミュニケーション能力等を生徒に身につけさせる。 3 保護者やPTA・振興会と連携し、ハローワークをはじめとした地域機関にも協力を仰ぎながら、キャリア教育を推進する。	
本年度の成果と反省	1 担任を中心に、定時制全体で情報を共有し、生徒理解に努めた。卒業生は企業見学等を積極的に行い、進路を実現させた。 2 一部学年でSSTを実施したが、70周年行事等の影響もあり、なかなか全体としては取り組めなかった。来年度より「総合的な探究の時間」の計画に組み込み、SSTへの取り組みを拡充させたい。 3 ハローワークや職場定着支援員、保護者等と連携しながら、キャリアに関連した教育を行った。	
	本年度の目標達成度4段階評価	
	A (B) C D	
次年度の目標と計画	1 キャリア教育全体計画・年間指導計画に基づいて、生徒に自ら学び、自ら考える力を身につけさせる教育を行う。 2 キャリア形成を意識した進路学習の実施。 3 学校生活全体を通じたキャリア教育の実践。	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	図書情報委員会
本年度の重点目標	1 校務センター内のネットワークの安定した運用 2 全日制教務部視聴覚班との連携、定時制HPの円滑な更新 3 成績処理システムの改善	
具体的実践と工夫	1 LAN接続ハードディスクの整備と管理を行う。 2 全定共有フォルダの活用と、全日制教育情報部と連携したホームページの管理・運営を行う。 3 各考査前に、成績処理システムの確認を行う。	
本年度の成果と反省	・今年度、業務系と学習系サーバーの更新が行われたが、校務センター内のネットワークを大きなトラブルもなく運用できた。 ・全日制のホームページ担当者と連絡を密にし、時期に合わせてホームページの更新を行った。	
	本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします	
	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
次年度の目標と計画	1 校務センター内ネットワーク環境の安定を図る 2 全日制と連携し、定時制HPの円滑な更新を行う 3 各分掌と連携をとりながらICT機器を管理・運用する。	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	修学旅行検討委員会
本年度の重点目標	1 安全で有意義な修学旅行の実現を目指す。	
具体的実践と工夫	1 修学旅行の積立額を算定し、明確で安全な計画の立案 2 保護者説明会の事前実施 3 事前学習の充実を図る	
本年度の成果と反省	現3年生が修学旅行を実施せず、次年度合同で行くことになった。 修学旅行の計画は紆余曲折があったが、次のように決定した。 研修地 東京 月 日 平成31年5月29～31日 企画旅行代理店 株式会社日本旅行 1月になってしまったので、事前に、どのように決めるのか詰めておく必要があった。	
	本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします	
	A B <input checked="" type="radio"/> C D	
次年度の目標と計画	次年度、4月下旬に保護者説明会を実施する予定。 4～5月のLHR等で研修先の事前学習。および自主研修計画。 安全で充実した研修旅行の実施	

平成30年度 経営・実践の評価と反省		部・科	支援委員会
本年度の重点目標	1 支援委員会の定期的な開催 2 支援学校との連携の継続 3 チームとしての支援の充実		
具体的実践と工夫	1 支援委員会を学期に2回以上実施 2 SENチェックリストを活用し、個別の指導計画の作成に活かす 3 支援学校のワックス作業への参加、学校祭への参加を継続 4 事例検討等の研修の実施→チーム支援の蓄積		
本年度の成果と反省	1 SENチェックリストを活用し、個別の指導計画を3名分作成し、教育専門監の指導を受けて修正し、生徒の実態に合った目標となった。 2 ゆり支援学校とのワックスがけ、学校祭での交流を継続できた。参加した生徒たちはコミュニケーション等の経験の場となった。交流を自己理解、他者理解の機会にするため、事前・事後指導を充実させたい。 3 事例検討会は教育専門監や障害者生活・就業支援相談員にも参加していただき、生徒のよりよい支援だけでなく職員の学びにもつながっている。 4 4月に、新入生の保護者全員と面談し、生徒理解と保護者との関係づくりができてよかった。		
	本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします		
	(A) B C D		
次年度の目標と計画	○チーム支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・SENチェックリスト等を新入生全員に実施し、特性を把握 ・支援学校教育専門監等の授業参観 ・事例検討会の実施 		

3 学年部

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	1 年部
本年度の重点目標		1 「働学一体」を目標とした基本的な生活習慣を確立し、定時制高校の生徒としてあるべき姿を知り、理想の社会人としての第一歩を踏み出す。 2 周囲を思いやりながら自己を律し、励まし合う意識を養い、共に生きることのできる豊かな人間性を身につける。
具体的実践と工夫		1 自身の特徴や適正を客観的に把握し、様々な就労体験を積むことができるよう「総合的学習の時間」を有効活用し、情報を収集する。 2 「定時の心得」を理解し、自らが正誤を判断できる能力を身につけるため自立と自律する力を養いながら、それぞれの理想とする社会人像を目標に設定する。 3 直接の会話によるコミュニケーションの習慣と能力を身につけ、多様な価値観に触れ、周囲を理解し思いやり助け合う。
本年度の成果と反省		多様な特徴を有する生徒が多く、理解力にも大きな幅があり、集団指導と個別指導のバランスをとることに苦慮した。特に今年度は、「自己を知る」ことに重点をおき、自身の特徴を客観的に把握することの意義への理解を促しながら、短期的、長期的な目標や夢を掲げることの大切さや自身の強みをさらに伸ばすことの大切さを理解するとともに内省の大切さを理解し、習慣的に実践するよう促し、手立てを講じてきた。しかし、その成果は十分とは言いがたく、まだまだ時間を要する状況にある。 本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします A B (C) D
次年度の目標と計画		1 様々な情報メディアを活用しながら、情報の収集、考察、表現する能力を高め、一般常識力を身につけ自身の進路目標の達成を目指す。 ・新聞などの活字媒体に習慣的に触れながら、国内外の様々な情報を収集し意見をまとめたり、互いに意見交換したりディベートの経験を積む。 2 進路目標の設定に関わる情報収集と進路活動計画の立案に取り組む。 ・前年度の高卒求人情報を参考に検索したり、職場定着支援員と連携しながら自己の適性を知り、進路決定に必要な情報の収集能力を養う。 3 周囲との円滑な関係構築を目指し、アルバイトやボランティアなどに勇気をもって継続的に挑戦し、多様な価値観に触れるながら自他ともに理解する力を身につける。

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	2 学部
本年度の重点目標		1 基本的な生活習慣の確立を図り、規律ある学校生活を送る。 2 日々の様々な活動を通じて、個々の成長と共に学級集団としても成長する。 3 働くことと社会貢献すること、学び続けることの大切さを知る。 4 卒業後の進路を明確にし、その実現に向けて具体的に行動する。
具体的実践と工夫		1 生徒への話しかけ、また、保護者との面談の機会も設定する。 2 日々の学校の諸活動を落ち着いて行う。 3 アルバイトを経験し、働くことと社会貢献的な意味を考える。 4 社会で生きることの自覚と、将来に向けての現実的な目標をもつ。
本年度の成果と反省		1 保護者との面談も実施できた。 2 後期中間頃、新生徒会が始まったところから、少し落ち着いてきた。 3 アルバイトをする生徒も多いが、辞めた後にしばらく間の開いている生徒もいる。 4 進路については、平成31年になって少し自覚を持って考えるようになってきた。 2名進路変更する生徒が出てしまった。 総学について HRと総学の時間の区別ができていなかった。2月時点での進路決定、履歴書等の作成や面接について一度体験させている。 本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします A (B) C D
次年度の目標と計画		3年修業履修者 全員の進路実現 全員の卒業 4年修業履修者 全員の進級 進路実現に向けての準備 総学について 3卒者は進路実現に向けて準備させたい。4卒者は進路に向けてしっかりした方向付けをさせたい。

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	3 学 年 部
本年度の重点目標		1 登校することから1人1人に再スタートさせる。 2 日々の様々な活動を通じて、個々の成長と共に学級集団としても成長する。 3 アルバイト、ボランティア、資格取得等にさらに積極的に挑戦する。 4 卒業後の進路と社会適応を身につけさせる。
具体的実践と工夫		1 提出期限厳守、勉強道具の用意、整容、整理整頓、プリント・ファイルの整理などについて、口頭での指導、保護者との連携など多方面からのアプローチで指導する。 2 HR活動や学校行事など学校での活動へ、積極的に参加するようにさせる。 3 様々な活動へ積極的に挑戦しようとする態度を養うとともに、情報提供を適宜行う。
本年度の成果と反省		<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の協力を得ながら面談を通して保護者との連携を深め、生徒の登校を促した結果、かろうじてではあるが履修を見込めるまで出席状況を回復することができた。 ・体調管理やアルバイトのスケジュール管理の大切さを機会があるごとに意識させることで、70周年記念式典などの行事に参加させ大役を果たさせることができた。 ・副担任の尽力により検定試験に挑戦させ、合格させることができた。 ・就職支援員の協力を得ながら三卒生の就職内定を得ることができた。 ・総学では各種講話を通して日々の生活や将来の在り方について考えさせた。進路についての学習も行ったが単発で終わることが多く、もう少し系統的に行うべきだったのではないかと思う。
		本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします A B C D
次年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として生活を見据え、必要な知識・生活習慣の定着を目指す。 ・進路目標の達成を目指す。 ・アルバイトや資格取得等に積極的に挑戦する態度を育む。

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	4 年 部
本年度の重点目標		1 社会人として必要な心構え・知識・生活習慣の定着を目指す。 2 自ら学び、成長しようとする意欲を高める。 3 自己実現としての進路目標の達成を目指す。
具体的実践と工夫		1 学級活動全体を通じて挨拶・マナーや生活について常に指導を行う。 2 自己有用感を高め、真剣に自らの将来について考え、学ぶ姿勢を養う。 3 進路目標を早期に明確化し、保護者と連携を取りながら進路実現に向けて計画的に取り組む。
本年度の成果と反省		1 就職活動と並行して、挨拶や言葉遣い、マナー等について繰り返し指導を行った。ある程度生活態度は改善したが、社会で通用する段階までは至らなかった部分もある。 2 自らの将来について考える機会を多数設け、就職活動に関しては意欲的に取り組ませることができた。学習意欲の向上には課題が残った。 3 進路目標は達成できそうな見込みである。
		本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします A B C D
次年度の目標と計画		1 基本的な生活習慣の確立 2 自ら学ぶ意欲の向上 3 進路目標の達成

4 教科

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	国 語 科
本年度の重点目標	1 社会で必要とされる基礎的な漢字・語彙力の定着を図る。 2 言語活動に重点を置き、文章読解力・自己表現力を向上させる。 3 新聞記事や評論教材を用い、多角的視点を身につけさせる。	
具体的実践と工夫	1 漢字検定や漢字コンテスト、小テスト等を活用し、漢字・語彙力を養成する。 2 話し合いや読解の成果を、単語ではなく一定量の文章として発表する機会を設け、表現力をつけさせる。 3 キャリア教育に関連した新聞記事や参考図書の分析に取り組みさせる。	
本年度の成果と反省	1 漢字検定は実施できなかったが、全学年で漢字・語彙課題に取り組みさせた。次年度は検定に向かう意欲を高める工夫をしていきたい。 2 全学年で一定量の文章記述や話し合い活動を盛り込んだ授業を行った。声の出せない生徒や文章を書けない生徒への手立ては考えておく必要がある。 3 新聞記事・評論教材を各クラスの実情に合わせて活用した。	
	本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします A B C D	
次年度の目標と計画	1 基礎的な漢字・語彙力の定着。 2 文章読解力の向上。 3 社会に必要な記述力・対話能力の定着。	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	地 理 歴 史 ・ 公 民
本年度の重点目標	1 授業時間が短い分の理解度を深めるための方策を検討する。 2 現状の学習環境のなかでの補助教材の活用方法について検討する。 3 時事問題の学習を通して現代の社会情勢に目を向けさせ、物事を幅広く考える力を身につけさせる。	
具体的実践と工夫	1 作業を取り入れた授業の展開や、小テスト等の実施により、授業内容の定着を図る。 2 積極的にICTを活用し、最新の情報を生徒に提供できるように心がける。 3 就職・進学試験も視野に入れ、考える力・自分の意見を述べる力の育成に努める。	
本年度の成果と反省	1 授業を通して考える力を持たせることはできたが、自分の意見を述べて発表し合うなどの学び合いの活動をさせるのは難しい部分があり、これからも授業改善を続けていく必要がある。 2 主に世界史の授業を中心にICTを活用して、授業への興味・関心を持たせることができた。 3 長期休業中の課題や課題テストの機会を利用し、時事問題に関心を持たせることができた。 4 基本的な知識の定着を図る必要があると感じた。	
	本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします A B C D	
次年度の目標と計画	1 授業内での理解度を深めるための方策を工夫しながら実践していく。 2 現状の学習環境の中で補助教材や地図を有効に活用し学力の定着を図る。 3 時事問題の学習を通して現代の社会情勢に目を向けさせ、物事を幅広く考える力を身につけさせる。	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	数 学 科
本年度の重点目標	1 望ましい学習態度を育む。 2 基礎的・基本的な学力の定着を図る。 3 数学的思考力を育む。	
具体的実践と工夫	1 授業終了後にノート提出させたりしながら、生徒の学習状況を確認して、授業を組み立てる。 2 小テストを実施し、その結果に応じた指導を行い内容の定着を図る。 3 学習を理解する力を育む、クイズ形式の問題を活用する。	
本年度の成果と反省	1 ノートやファイルの提出によって、チェックを行ったクラスもあるが、意欲をもって取り組むことのできるステップを刻む必要を感じる。しかし、あまりにも基礎ができていない生徒もあり、苦慮している。 2 小テストは必要に応じて行った。 3 授業の進み具合に応じて、時折、クイズ形式の問題に取り組むことによって、思考力の向上を図った。	
	本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします	
	A (B) C D	
次年度の目標と計画	1 基礎計算力の低い生徒に対しては、基礎計算力の向上をはかる工夫をする。 2 小テストにより、基礎事項の定着をはかる。 3 思考力を育てる、クイズ形式の問題を盛り込む。	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	理 科
本年度の重点目標	1 科学への興味・関心を持たせる。 2 考え・表現する習慣をつけさせる。 3 社会人の基礎となる知識の定着を図る。	
具体的実践と工夫	1 観察・実験を充実させる。 2 身近な現象や時事などの話題を取り入れ、提示した事象に関する発問を多く行い、生徒どうしの意見交換の機会を設ける。 3 振り返りの時間を確保し、まとめプリントを充実させる。	
本年度の成果と反省	1 微生物や細胞の観察、物質の分離性質についての実験、DNA模型の作製などを行った。 2 時事や身近な現象を例示しながら興味・関心を高めた。ホワイトボードなどを用いて緘黙傾向の生徒も意見交換に参加しやすいように工夫した。 3 授業ごとにその時間の内容を振り返るように努めた。また、単元終了時や考査前などにまとめプリントを用いて復習を行った。	
	本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします	
	A (B) C D	
次年度の目標と計画	【目標】 1 科学への興味・関心を持たせる。 2 科学的に考え・表現する習慣をつけさせる。 【計画】 1 観察・実験機会を充実させる。時事などの話題を取り入れる。 2 身近な現象や観察したことについて生徒どうしの意見交換の機会を設ける。	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	保健体育科
本年度の重点目標	1 「受ける」姿勢から「する」「組み立てる」意識への変革を促し、体力の向上や健康の保持増進を目指す。自己評価の習慣を身につける。	
	2 得手不得手にかかわらず、すべての生徒が運動を楽しみ、積極的、継続的に活動できるよう環境の整備充実を図る。	
	3 周囲への配慮や協力して授業に取り組む姿勢を養う。	
具体的実践と工夫	1 メディアを有効に活用しながら、少人数でも活発に活動できる実践例を参考に授業改善へ取り組む。	
	2 健康や安全に留意して主体的に学習する態度を育成するための教材の精選を図る。	
	3 指定体操着の100%着用率を目指す。	
本年度の成果と反省	<p>【体育】授業中の大きな事故や怪我はなく、周囲への配慮や安全に対する意識も高まりつつある。また、周囲と協力して準備や後片付けできるようになり、用具も大切に扱うことができるようになった。いずれの学年も一定の運動量を確保できている。</p> <p>【保健】単元によって強い興味関心を示す時とそうでないときの差が大きい。発問方法や内容、授業の組み立てなど授業改善を進めたい。</p> <p>本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします</p> <p>A B C D</p>	
次年度の目標と計画	<p>1 得手不得手にかかわらず、すべての生徒が運動を楽しみ、積極的、継続的に活動できるよう学習環境の整備充実と継続的な授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた施設や用具、少人数でも効率的、積極的に活動できるよう工夫する。 <p>2 「授業を受ける」姿勢から「自ら授業を組み立て学ぶ」という意識への変革を促し、体力の向上や健康の保持増進を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に留意し、マナーを守りながら積極的にコミュニケーションを図り、自他の体力や運動能力差も含めた自他の理解を深める。 <p>3 自己評価の習慣を身につけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人学習ノートの活用を促す。 	

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	芸術科
本年度の重点目標	[書道]	<p>1 ふでやペンの持ち方を身につけ、整った文字の書き方を身につける。</p> <p>2 日常生活に用いられる実用的な書面を練習する。</p> <p>3 表現を工夫し、書の創作を楽しむ。</p>
具体的実践と工夫	[書道]	<p>1 基礎・基本を重視した反復練習により、正しい字の書き方を習得させる。</p> <p>2 キャリア教育の一環として履歴書や礼状等の実用的な書面を扱う。</p> <p>3 表現の楽しさや完成の喜びを味わうことができる課題・教材を用いる。</p>
本年度の成果と反省	<p>1 硬筆を中心に書写を行い、丁寧な字を書く習慣を身につけさせた。</p> <p>2 手紙の書き方等、実用的な文の書き方を基本から学ばせた。</p> <p>3 創作課題等に取り組ませ、様々な書の表現を行わせた。</p> <p>本年度の目標達成度4段階評価 ○ をお願いします</p> <p>A B C D</p>	
次年度の目標と計画	<p>1 丁寧に字を書く習慣を定着させる。</p> <p>2 社会生活で必要とされる文書の書き方を身につけさせる。</p> <p>3 書の表現を鑑賞する態度を育む。</p>	

平成30年度 経営・実践の評価と反省		部・科	外国語科
本年度の重点目標	1 基礎・基本を身に付けさせるための指導の工夫 2 英語検定受検者増加をねらった教材の開発 3 生徒の実態を踏まえたTT及びALTとの連携		
具体的実践と工夫	1 自学自習教材の開発 2 英語検定過去問を取り入れたプリント課題の作成 3 年間計画作成から評価までALTとの綿密な連携		
本年度の成果と反省	(1、2について)教科書、副教材、ふるさと教育教材から精選した内容について、英語を苦手とする生徒に対応した学習プリントを毎時間作成し、授業で活用させるとともに、自己管理を促した。 (3について)定時制課程の生徒にとってふさわしい内容となるよう、アルバイト先に外国人が来たときを想定し、ALTとともに独自の年間指導計画を作成し、会話表現を中心に指導した。		
	本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします		
	A <input checked="" type="radio"/> B C D		
次年度の目標と計画	1 音素認識スキルの向上から英文読解までを見通した教材作り 2 基礎・基本を身に付けさせるための指導の工夫 3 生徒の実態を踏まえたTT及びALTとの連携		

平成30年度 経営・実践の評価と反省		部・科	家庭
本年度の重点目標	1 学んだ知識および技能を、生活の中で活用できるような題材・教材を開発する。 2 授業で学ぶ知識や技能が、自分の生活と深く結びついていることを実感させる。		
具体的実践と工夫	1 主体的に学習に取り組ませる教材の精選および指導法の工夫。 2 学習態度の育成。 3 身近な題材の設定。		
本年度の成果と反省	体験的な活動や生徒が思考・判断する場面を多く設定し、実感をともなった理解につながるような授業を工夫したい。		
	本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします		
	A <input checked="" type="radio"/> B C D		
次年度の目標と計画	学ぶことの必要性や学校での活動が将来自分に役立つことなどを感じることができるよう授業や活動のあり方を考え、授業に取り入れたいと思う。		

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	情報科
本年度の重点目標		1 情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。 2 情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技術を習得させる。 3 情報モラルと、セキュリティの意識を向上させる。
具体的実践と工夫		1 コンピュータやスマートフォンなど、身近な情報機器と絡めて授業を行う。 2 中学校での学習の程度を踏まえながら、コンピュータの基本的な操作方法とタッチメソッドの体得を図る。 3 事ある毎に、情報モラルや情報セキュリティの内容を取り入れて指導する。
本年度の成果と反省		園部先生が退職したこともあり、多少内容に変更が生じた。 1 スマートフォンなど身近な情報機器について授業で扱った。 2 タッチメソッドは扱ったが、体得をはかるほどの時間は取らなかった。様々な活用に重きを置いて、後半の授業を行った。 3 定期考査では情報モラルと情報セキュリティに絡んだ内容を盛り込んだ。
		本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします
		A <input checked="" type="radio"/> B C D
次年度の目標と計画		次の1年生からは、もう少し、情報機器を活用して、情報を集めたり、活用したり、表現することに重きを置きたい。そのためにも、基礎となるタッチメソッドなどは早い時期から、関わるようにしたい。(コンピュータを操作したのは夏休み以降であった。) 今年同様、事ある毎に、情報モラルや情報セキュリティの内容を取り入れて指導していきたい。

平成30年度 経営・実践の評価と反省	部・科	商業科
本年度の重点目標		1 コンピュータ操作やビジネスの基礎・基本等、実社会で役立つ知識と技術を身に付けさせる。 2 授業理解度の差を生まないように、生徒同士で協働学習ができるような体制を整える。 3 授業を通じて、各種検定を積極的に受験するための意識づけを行う。
具体的実践と工夫		1 コンピュータ実習のある授業ではタイピング練習を毎時間実施する。 2 電算室の座席を工夫する。 3 検定試験に対応した授業を実施することで、検定試験への動機づけを図る。 4 検定受験料をアルバイト料で自ら支払い、アルバイト料の有意義な使い方を体得させる。
本年度の成果と反省		・タイピング練習を毎時間行うことができなかったが表計算ソフトや簡易のプログラミングソフトを使った授業を行い、コンピュータに関する幅広い知識や技術を身に付けることができた。また、ビジネスマナーや電卓計算を通して実社会で役立つ知識や技術、教養の身に付く授業を行うことができた。 ・互いに教え合い、学び合うことのできる座席や環境の工夫が必要であった。 ・各種検定を実施し、合格者も出すことができたが、授業内で検定への動機づけが不十分であった。
		本年度の目標達成度4段階評価 <input type="radio"/> をお願いします
		A <input checked="" type="radio"/> B C D
次年度の目標と計画		・幅広いコンピュータ操作や横断的な学習によるビジネスの基礎・基本等、実社会で役立つ知識と教養を身に付けさせる。 ・授業理解度やコンピュータ操作の習熟度に差を生まないよう、生徒同士で共同学習ができるような体制や環境を整える。 ・授業を通して、各種検定への動機付け・意識付けを行い、受験者数増加と合格率の向上を図る。